

在宅療養・看取りに関する 意識調査

調査概要

調査期間	令和7年10月20日(月)から令和7年11月14日(金)まで
実施方法	(1)配布方法:郵送による配布 (2)回収方法:郵送およびWEBフォームによる回答の回収
調査内容	(1)医療・介護について (2)エンディングノートについて (3)在宅療養・終末期医療について
調査対象	市民1,000人(40歳以上100歳未満)
回収数	463件(郵送:327件、WEB:136件)
回収率	46.3%(前回(令和4年度)調査:42.1%)

調査の結果① 《あなたご自身のことについて》

《性別》

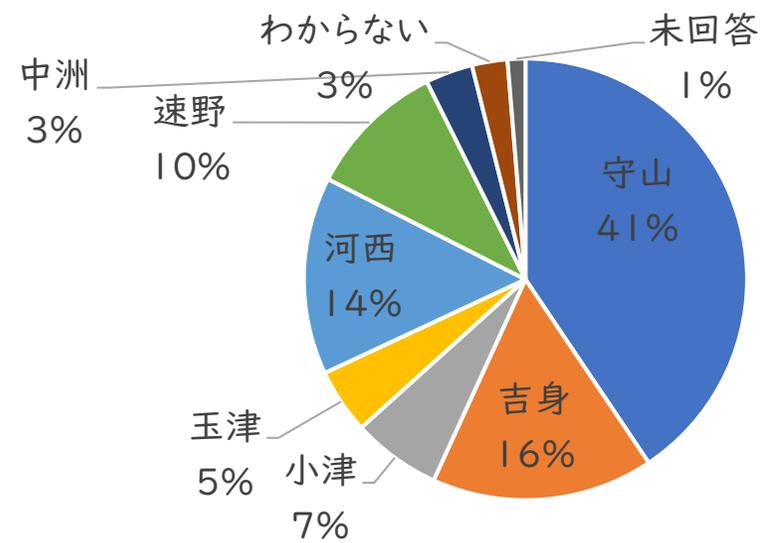
男性:203人(43.8%)	女性:250人(54.0%)	回答したくない:3人(0.6%)
----------------	----------------	------------------

《年代別》

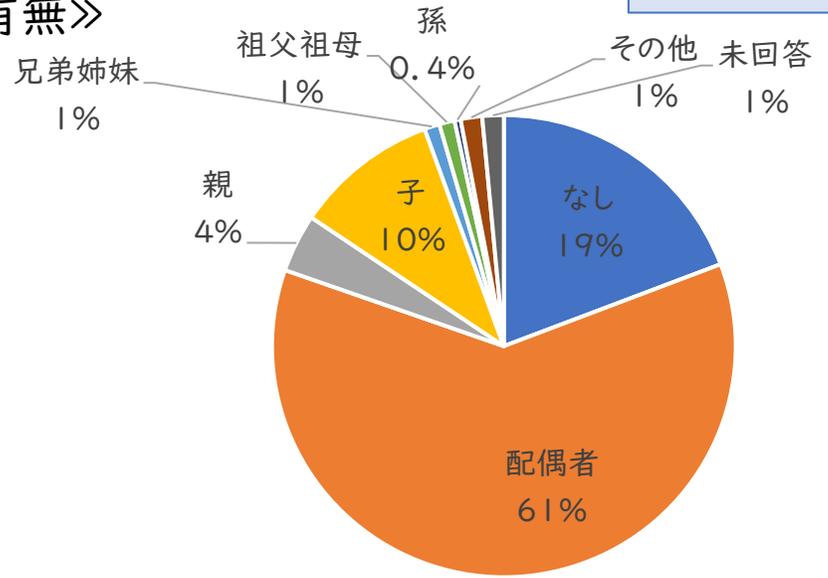
	40~64歳	前期高齢者	後期高齢者
令和7年度	244人(52.7%)	92人(19.9%)	122人(26.3%)
令和4年度	46.4%	27.4%	25.1%
令和元年度	49.9%	26.8%	23.4%

・令和4年度の調査と比べ、40~64歳の回答者の割合が増加しました。
 ・同居家族の有無では、配偶者と同居の方が61%と最も多く、次いで、独居の方が19%でした。

《学区別》



《同居家族の有無》



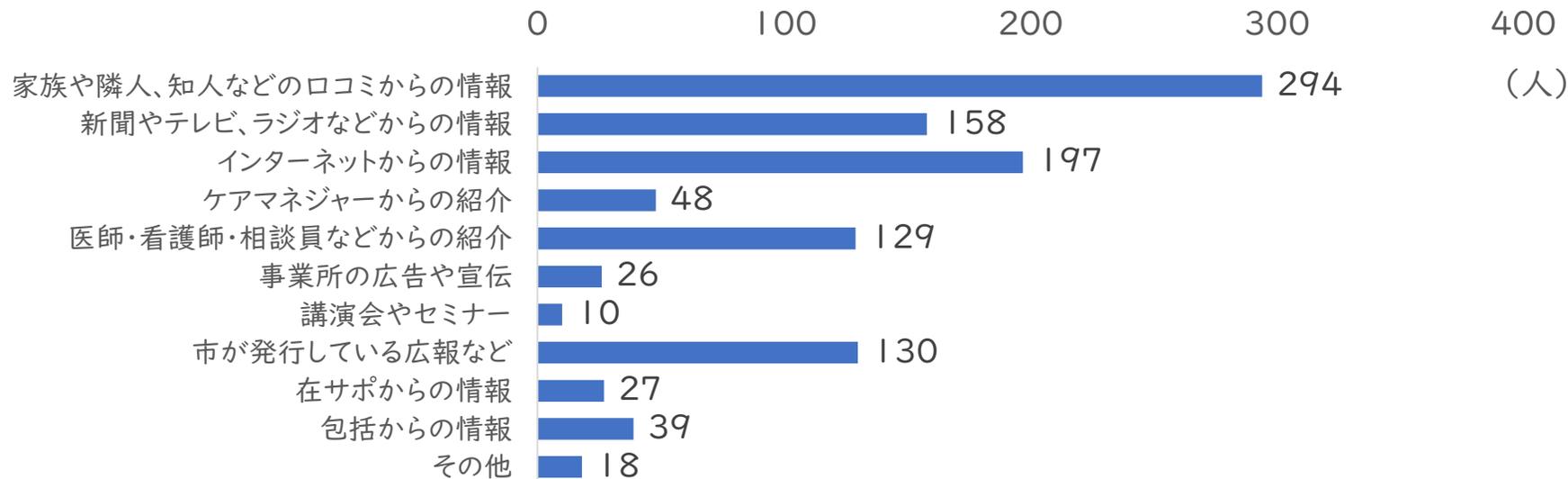
調査の結果② 《医療・介護について》

《かかりつけの有無》

		令和7年度	令和4年度	令和元年度
かかりつけ医	決めている	↓ 66.7%	76.4%	70.2%
	決めていない	32.4%	22.0%	20.2%
かかりつけ歯科医院	決めている	↑ 76.4%	53.1%	
	決めていない	22.5%	30.4%	
かかりつけ薬局	決めている	39.0%		
	決めていない	58.9%		

・かかりつけ医を決めている割合は前回調査時より、9.7%減少しています。
 ・かかりつけ歯科医院を決めている割合は23.3%増加しました。

《医療や介護に関する情報の入手先》



・医療や介護に関する情報の入手先では、家族や知人などの口コミが最も多く、次いでインターネットからの情報が多くなっている。

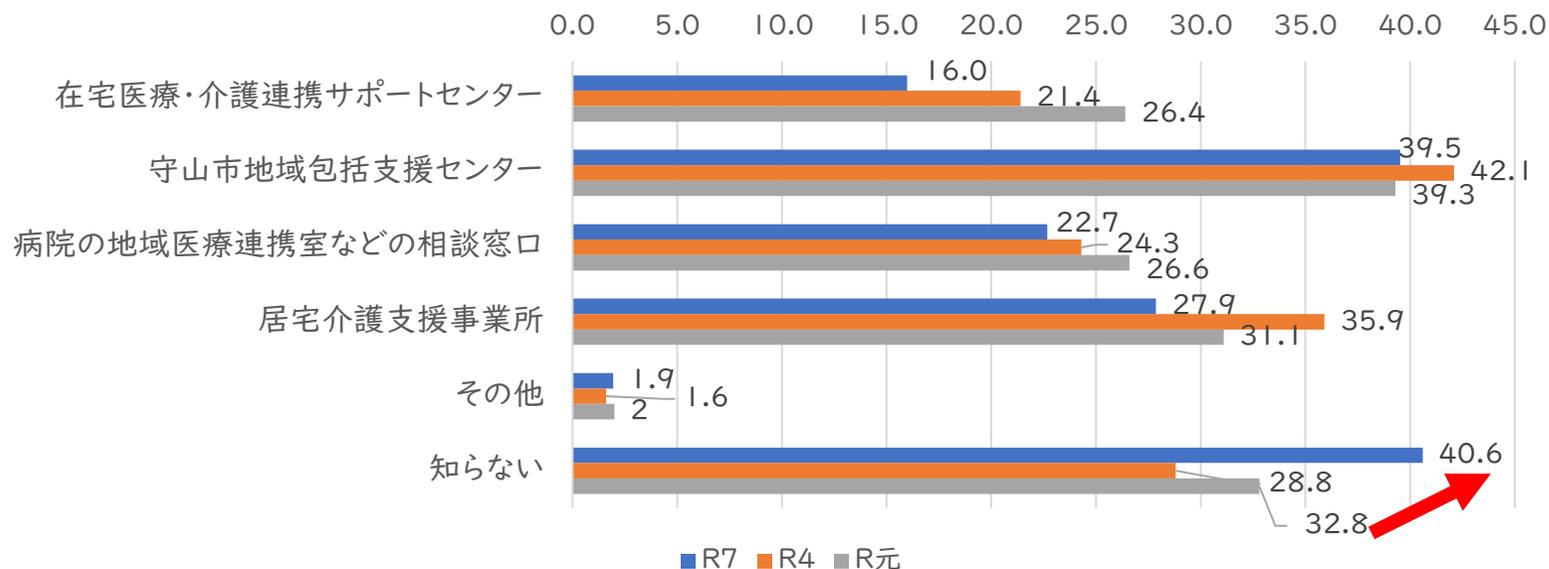
調査の結果③ 《医療・介護について》

《介護の経験の有無》

	令和7年度	令和4年度	令和元年度
現在、介護をしている	5.6%	11.0%	7.8%
今までに介護の経験がある	35.6%	31.8%	27.5%
介護の経験がない	52.0%	46.6%	58.5%
現在、自分自身が介護を受けている	4.5%	4.9%	2.8%

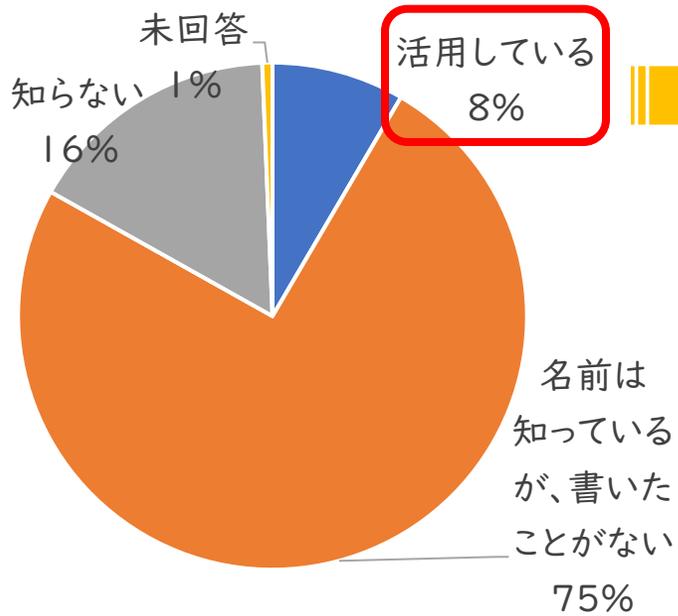
・「現在介護している」、「今までに介護の経験がある」と回答した人は41.2%でした。

《介護サービスの利用等の相談先》

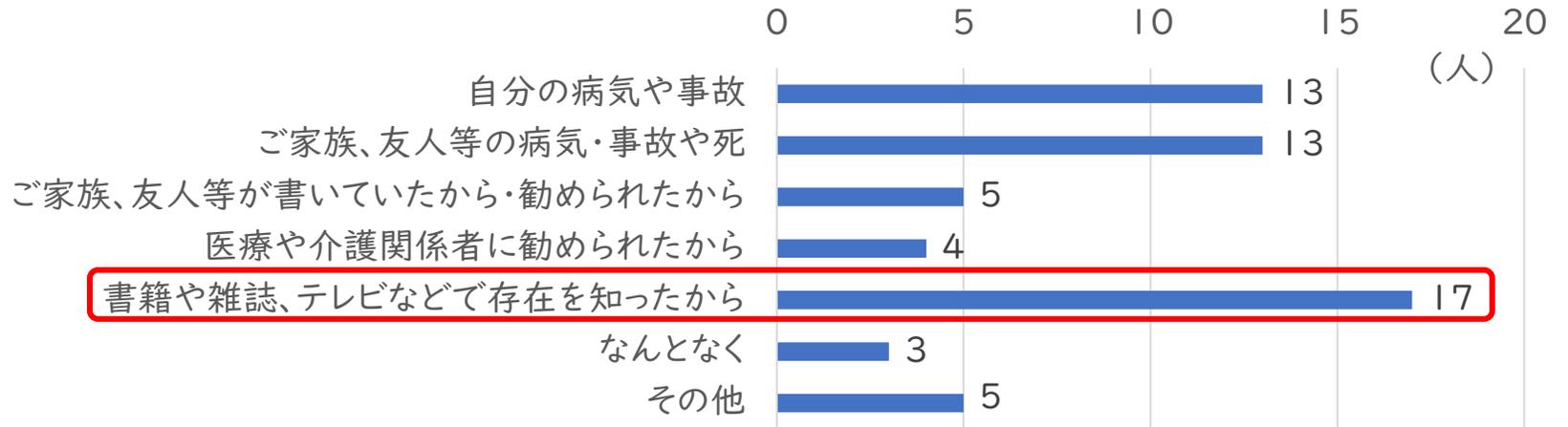


・相談先を知らない人の割合が増加しており、40.6%と一番多くかった。在サポ、地域包括、病院の相談窓口、居宅介護支援事業所すべての項目で前回調査時よりも割合が低下していた。

調査の結果④ 《エンディングノートについて》



活用している人のうち、エンディングノートを書いたきっかけは何か。(複数回答可)



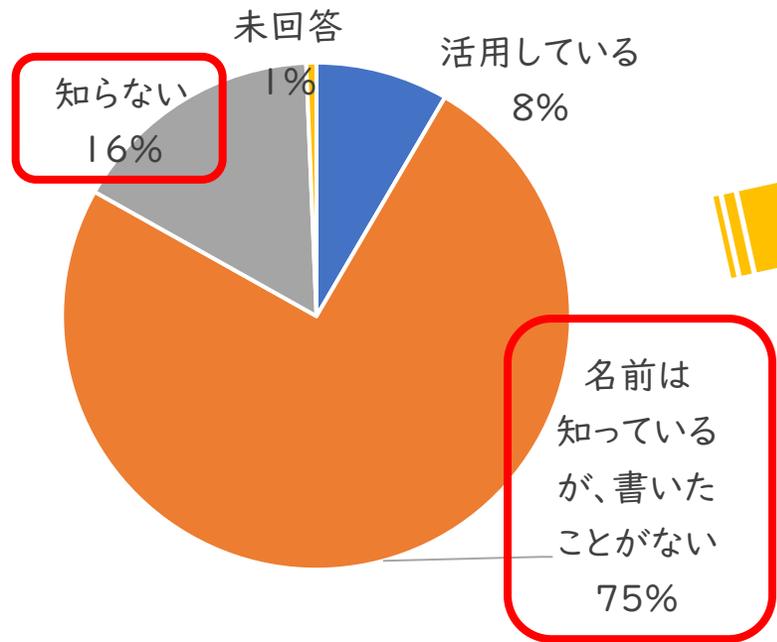
・エンディングノートを活用している人は、全体の8%でした。エンディングノートを書いたきっかけでは、書籍や雑誌、テレビなどで存在を知ったからが一番多く次いで、自身や家族の病気が多かったです。

・記入したエンディングノートについては、38%の人が共有していないという結果でした。

エンディングノートの内容について誰かに話したり、書いたものを見せて共有したか。(複数回答可)



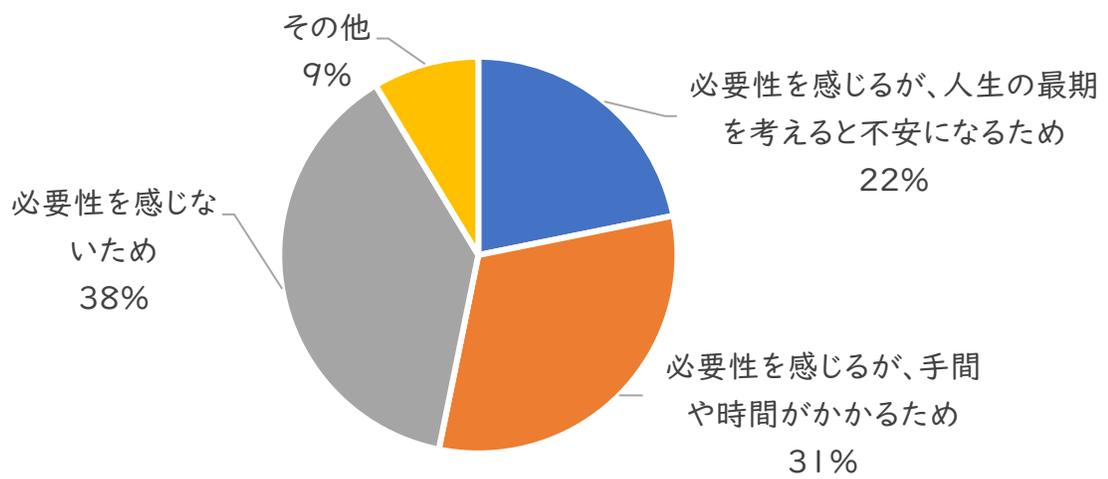
調査の結果⑤ 《エンディングノートについて》



知っているが、書いたことはない、知らないと答えた方
今後エンディングノートを書くつもりがあるか。

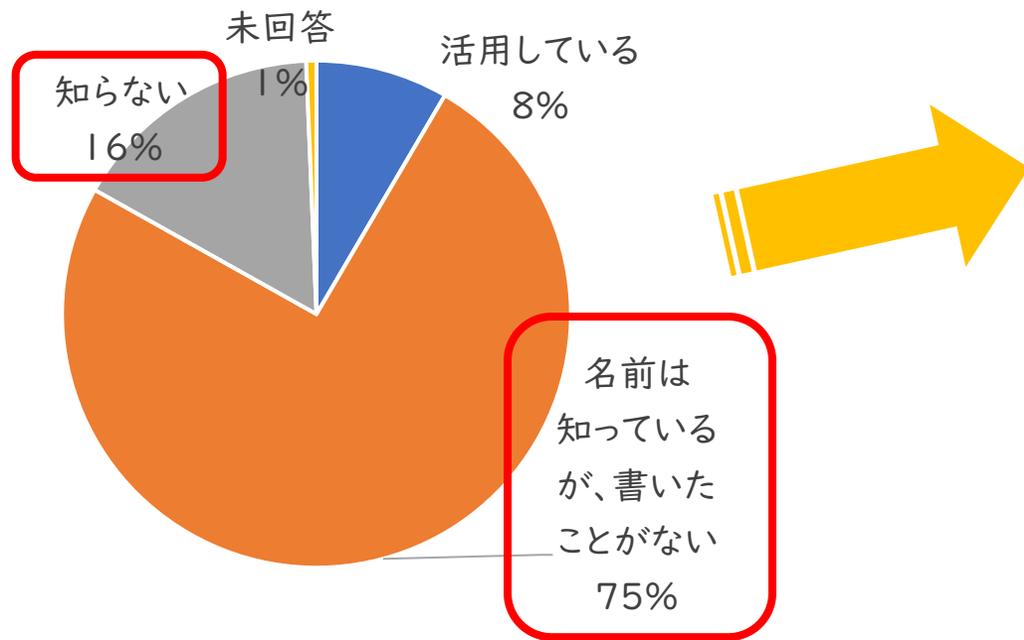


書くつもりはない、わからないと答えた方
その理由は？

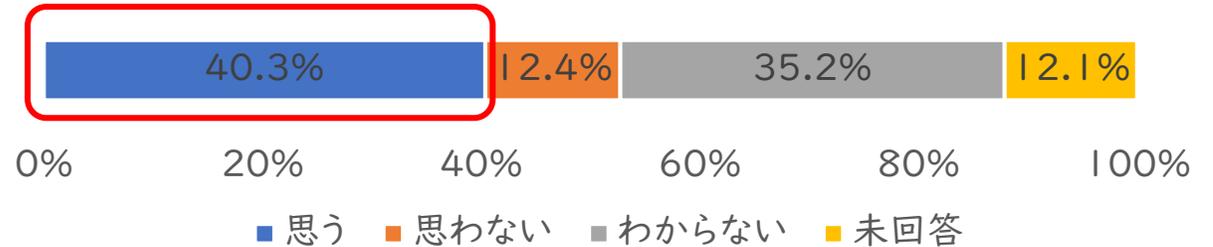


・エンディングノートを書いたことがない人のうち、書くつもりはない、わからないという人が53.9%で、その理由では、必要性を感じないが最も多く、次いで、必要性を感じるが手間や時間がかかるという結果でした。

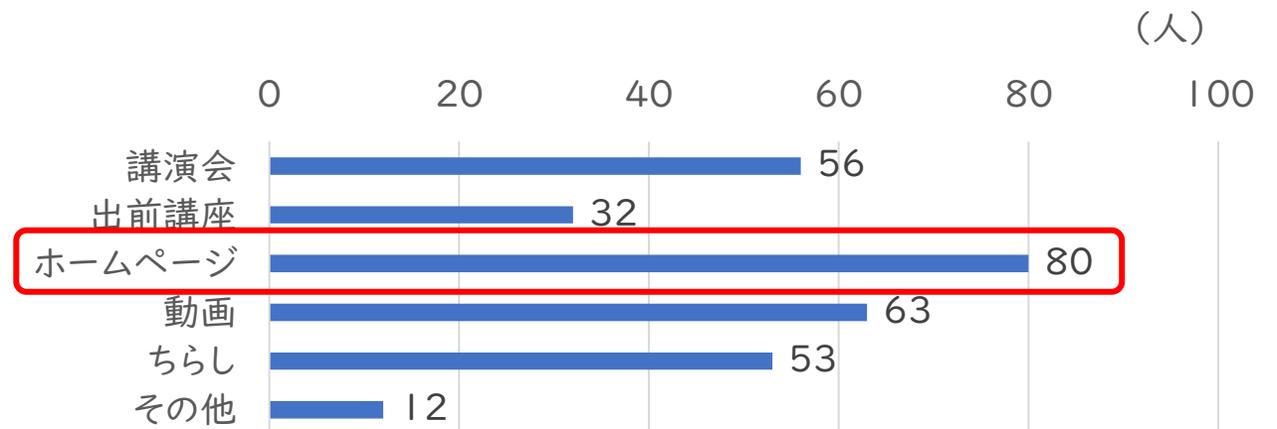
調査の結果⑥ 《エンディングノートについて》



知っているが、書いたことはない、知らないとお答えになられた方
エンディングノートを書く目的や書き方について知ることができれば
書いてみようと思うか。



エンディングノートを書く目的や書き方を知る機会等について、
どのような機会や媒体であれば、参加したい、見たいと思いますか。



・エンディングノートを書いたことがない人のうち、いずれ書こうと思うという人のうち、目的や書き方を知ることができれば書こうと思う人は、40.3%でした。
・知る機会では、ホームページが最も多く、次いで動画、講演会の順で多くなっていました。

調査の結果⑦

《在宅療養・終末期医療について～あなた自身のことについて～》

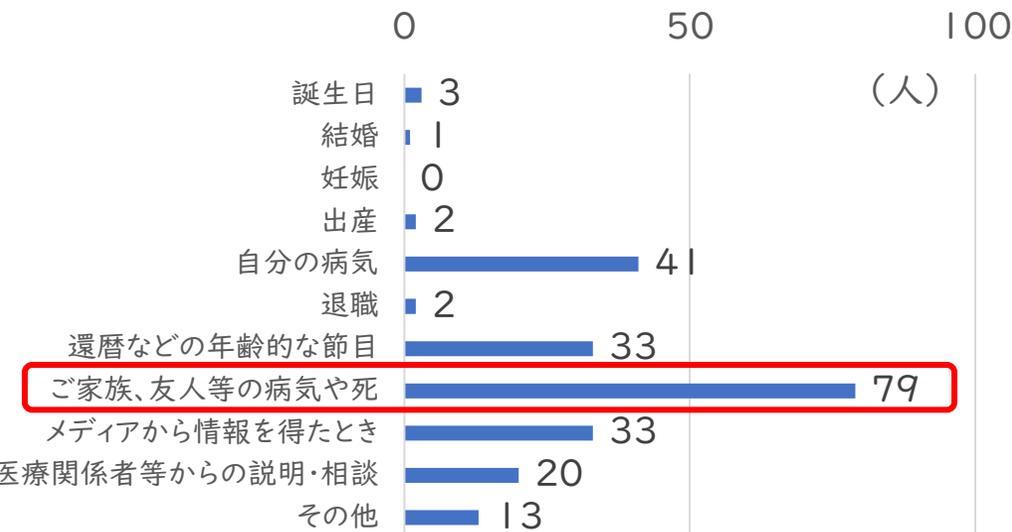
《自分に万が一のことが起こったときのことなどを家族と話し合ったことがあるか》

	令和7年度	令和4年度	令和元年度
はい	29.4%	25.1%	28.2%
いいえ	68.9%	72.3%	70.8%

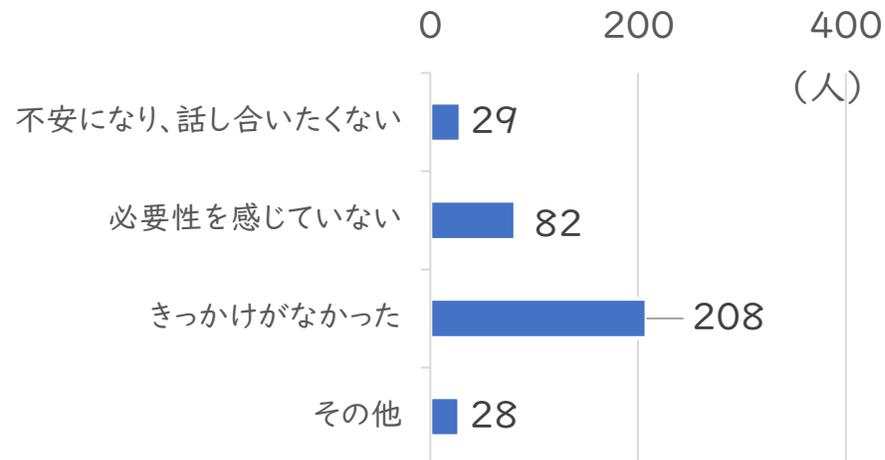
《ACPの認知度について》

	令和7年度	令和4年度	令和元年度
知っている	5.8%	5.5%	11.7%
名前は聞いたことがある	7.6%	7.9%	14.2%
知らない	85.5%	84.0%	72.2%

《話し合ったきっかけについて》



《話し合っていない理由》



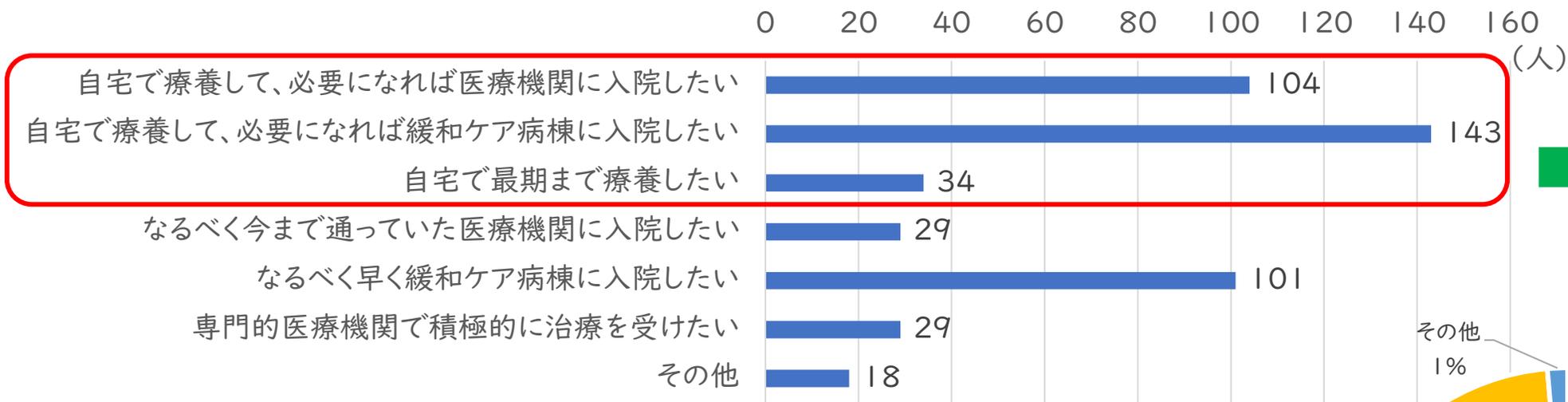
・万が一のことを話しあったことのある人の割合は前回調査時より増加しています。きっかけでは、ご家族や友人の病気や死が最も多く、次いで自身の病気、年齢的な節目、メディアから情報を得たときの順に多くなっています。

・話あっていない理由ではきっかけがなかったがもっとも多くなっています。

調査の結果⑧

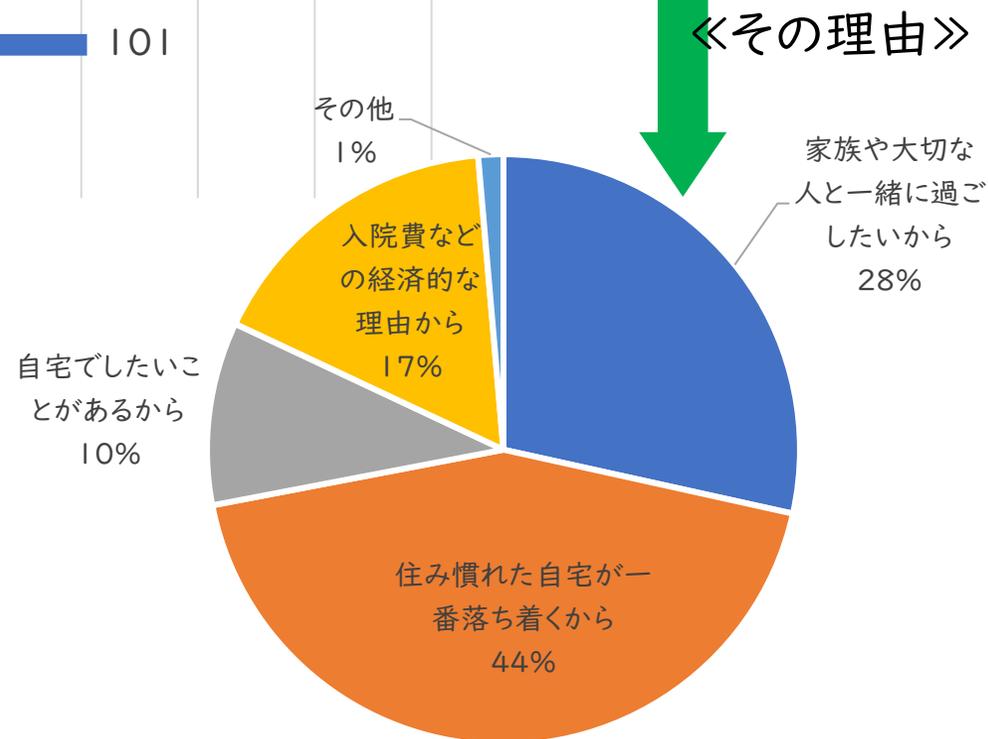
《在宅療養・終末期医療について～あなた自身のことについて～》

《6か月以内に死期が迫っている状態にある場合、どのようにしたいか》



・6か月以内に死期が迫っている状態での希望については、自宅で療養して、必要時に医療機関や緩和ケア病棟に入院したいという人の割合が多くなっています。また、なるべく早く緩和ケア病棟に入院したいという人の割合も多く、緩和ケアを望まれる人が多くなっています。

・自宅で療養したい人の理由では、住み慣れた自宅が一番落ち着くからがもっとも多く、次いで家族や大切な人と過ごしたいから、入院費などの経済的な理由、自宅でしたいことがあるの順に多くなっています。



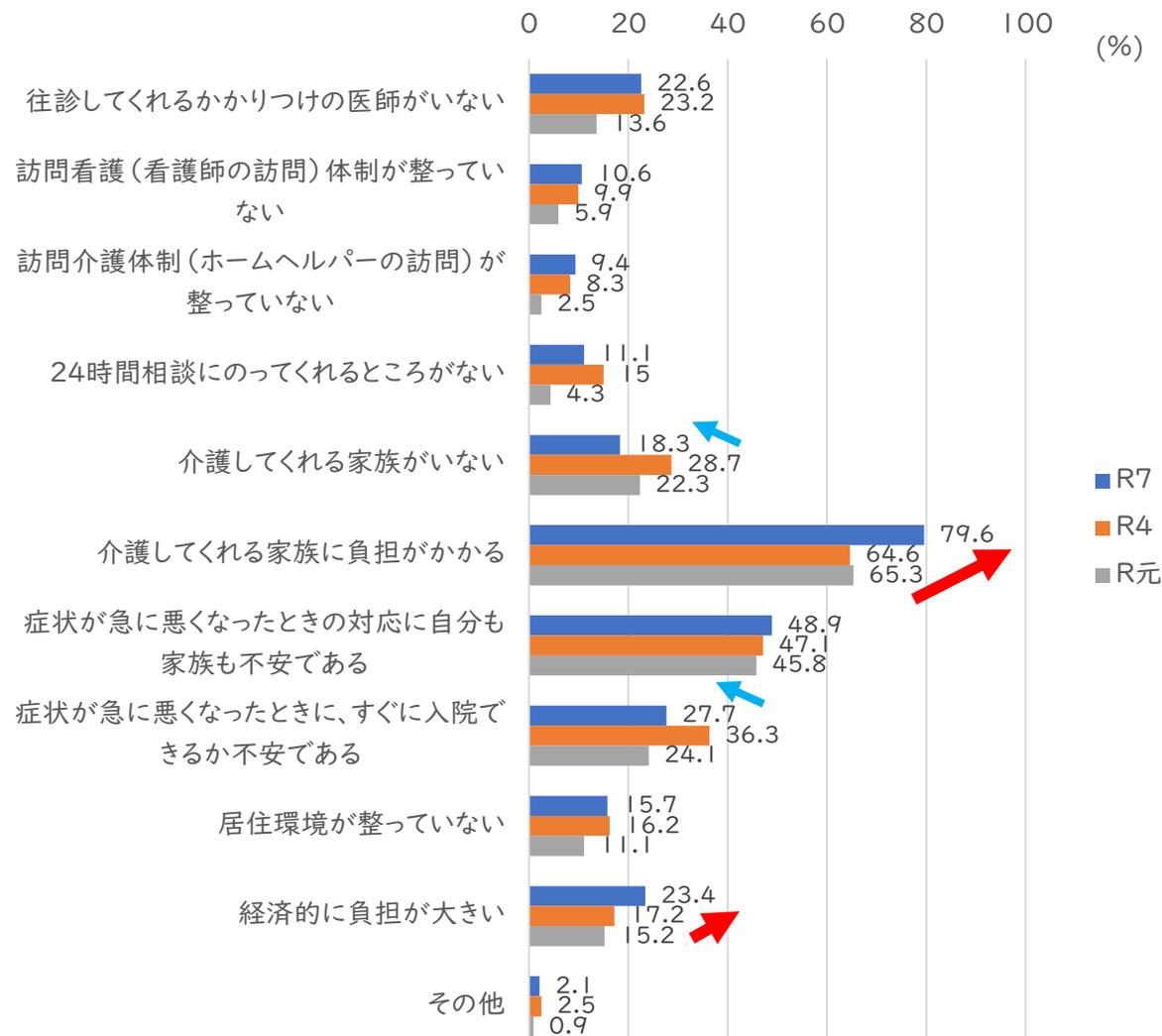
調査の結果⑨

《在宅療養・終末期医療について～あなた自身のことについて～》

《自宅で最期まで療養できると思うか》

	令和7年度	令和4年度	令和元年度
できる	5.6%	7.1%	7.7%
できない	50.8%	46.6%	46%
わからない	42.8%	44.4%	44.7%

《できないと思う理由》



・最期まで、自宅で療養できると回答した人の割合は減少しています。

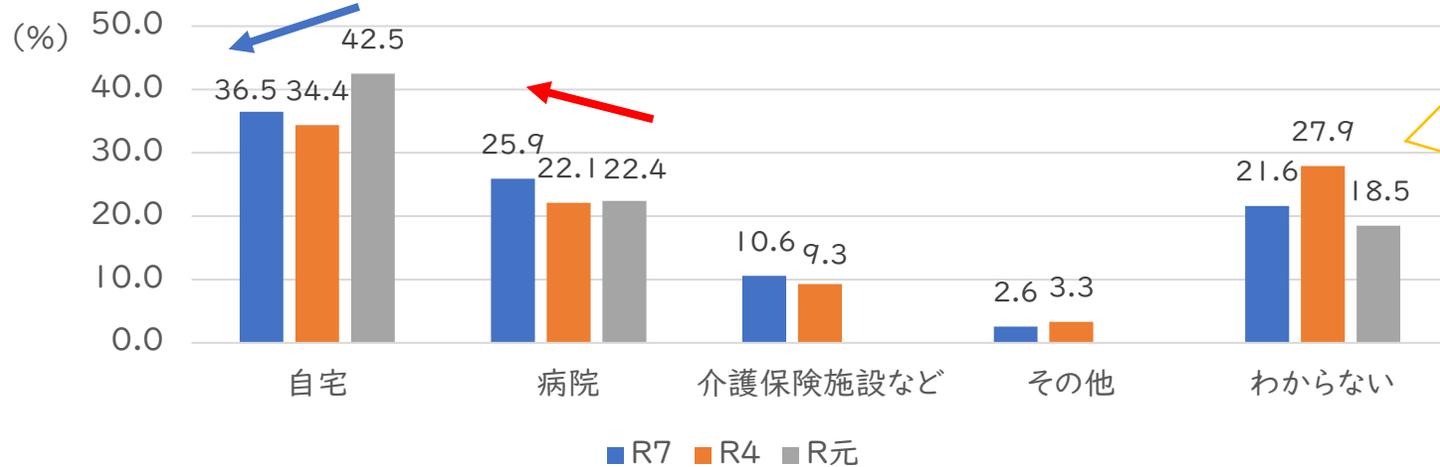
・できないと思う理由では、介護してくれる家族に負担がかかるがもっとも多く、前回調査時より回答割合が増加しています。また、経済的に負担が大きいと回答した人の割合も前回調査時より増加しています。

・症状が急に悪くなったときにすぐに入院できるか不安、介護してくれる家族がないと回答した人の割合は前回調査時より減少しています。

調査の結果⑩

《在宅療養・終末期医療について～あなた自身のことについて～》

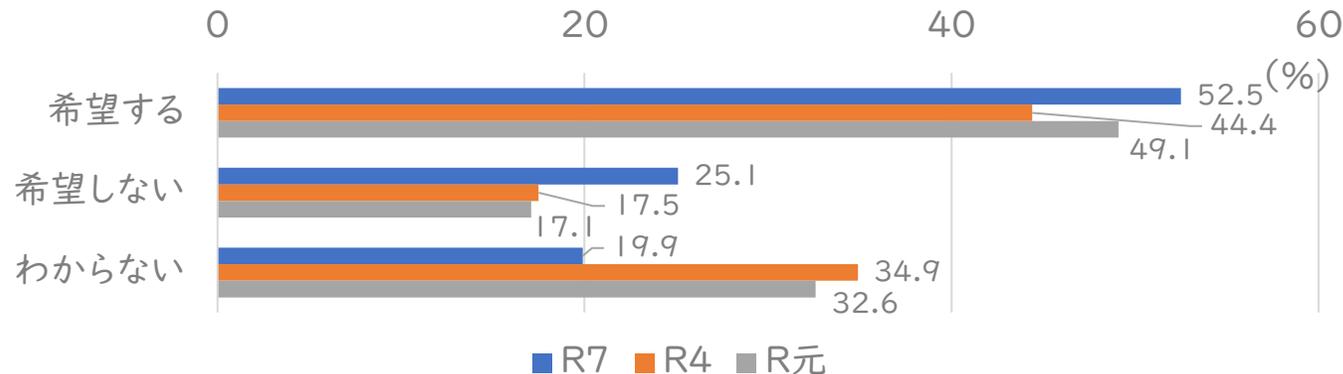
《人生の最期をどこで、迎えたいか》



《わからない理由》

- ・家族に経済的な負担をかけたくないという思いがあるが、それぞれ必要となる費用の想定ができないため。
- ・まだ先のことで考えていない。
- ・介護をしてくれる家族や身の回りの人のことを考えると、自分の意思を優先する事がこれから生きていく人の負担であってはいけないと思うので、どうする事が一番良いのかわからない。
- ・自分の家族構成がこれからどう変化するかわからないから。

《あなたは、自宅で最期を迎えることができる環境が整っていれば、自宅で最期を迎えたいと希望しますか》

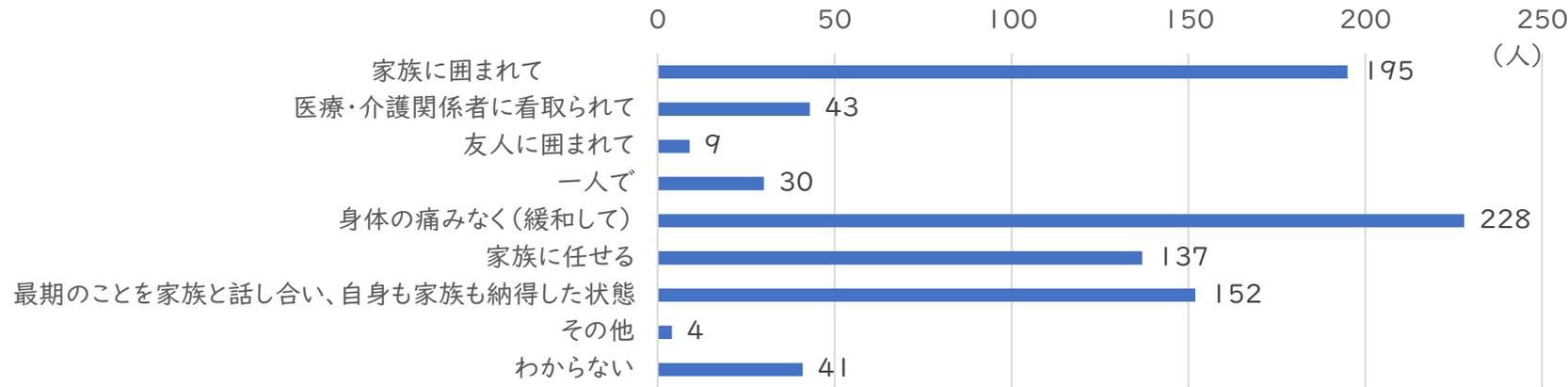


- ・人生の最期を迎えたい場所では、自宅が最も多くなっていますが、前々回調査時(令和元年)よりは低くなっています。病院と回答した人の割合は増加しています。
- ・わからないと回答した人も多く、その理由では、まだ先のことで考えられないが多くありました。
- ・環境が整っていれば、自宅での最期を希望する人の割合は前回調査時より増加しています。

調査の結果①①

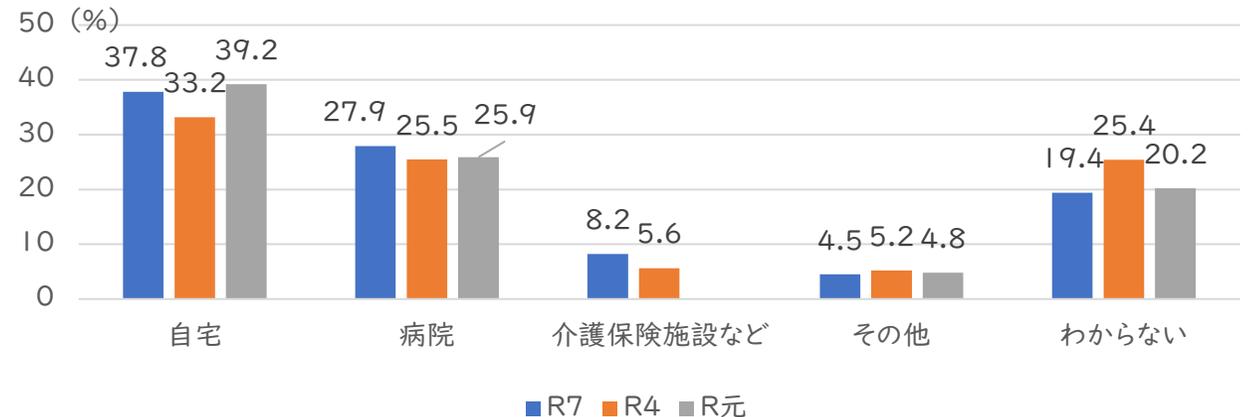
《在宅療養・終末期医療について～あなた自身のことについて～》

《あなたは、人生の最期（看取り）をどのように迎えたいか（複数回答可）》



・人生の最期をどのように迎えたいかでは、身体の痛みなく（緩和して）が最も多く、次いで家族に囲まれて、最期のことを家族と話し合い、自身も家族も納得しての順で多くなっています。
・家族に最期を迎えてほしい場所では、自宅が一番多くなっています。

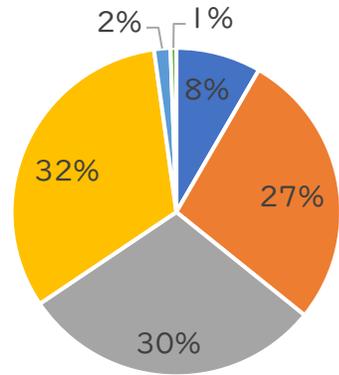
《家族に人生の最期をどこで迎えてほしいと希望するか》



調査の結果⑫

《在宅療養・終末期医療について～ご家族の在宅療養について～》

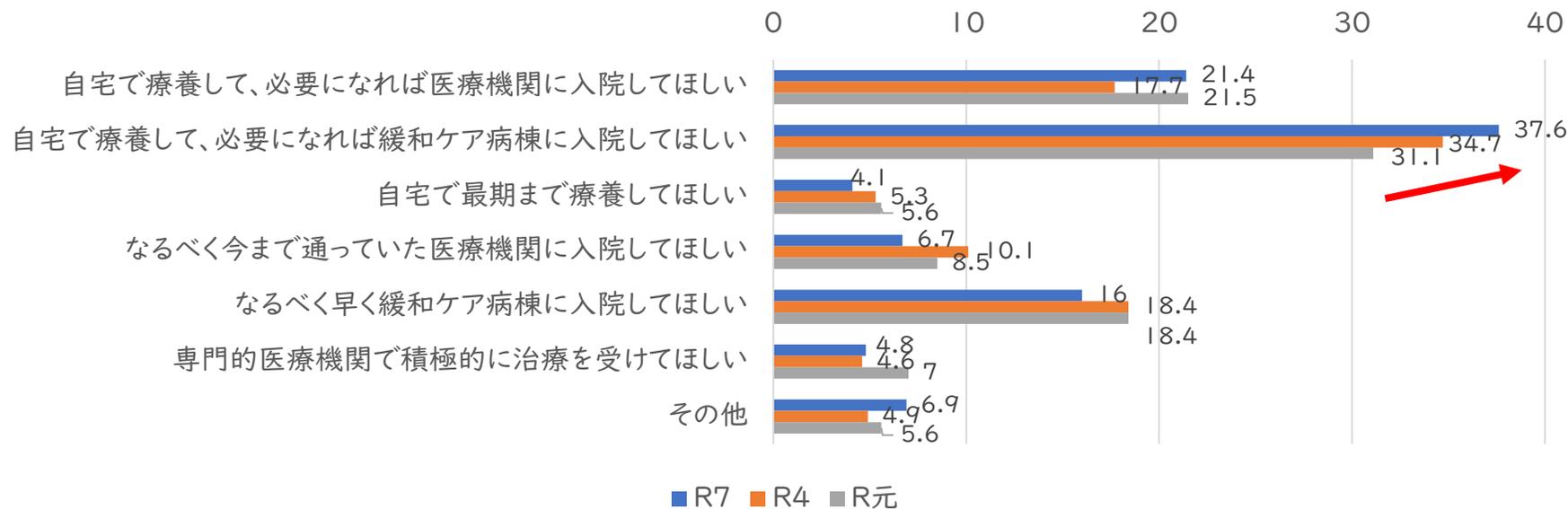
《もし、家族が余命「数か月」と死期が迫った場合、してあげたいと感じること（複数回答可）》



- 本人の人生を一緒に振り返る
- 最期まで一緒に寄り添い看取りをする
- 本人のやりたいことをやり遂げさせてあげる
- 残された日々の過ごし方を一緒に考える
- 特になし
- その他

・家族に死期が迫った場合にしてあげたいと感じることでは、残された日々の過ごし方を一緒に考える、本人のやりたいことをやり遂げさせてあげるの順で多くなっています。
 ・過ごし方では、自宅で療養して必要になれば、緩和ケア病棟に入院してほしいが最も多く、次いで、自宅で療養して必要になれば、医療機関に入院してほしいが多くなっています。

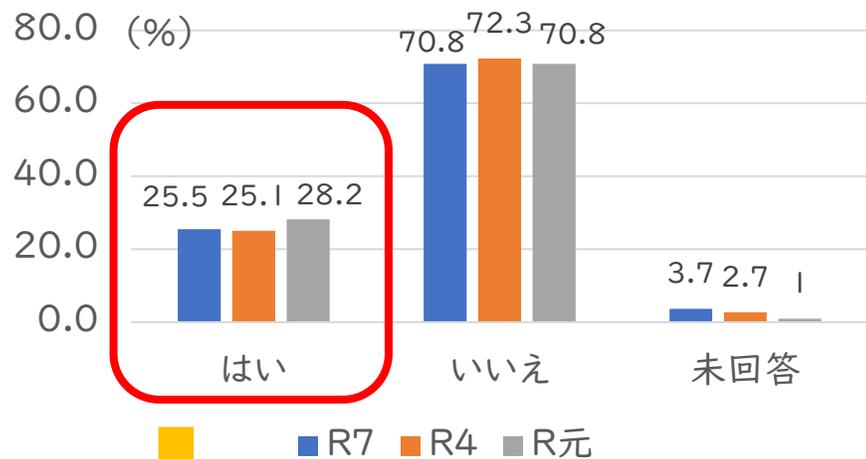
《あなたの家族が6か月以内に死期が迫っている状態だとした場合、どのようにしたいと思うか》



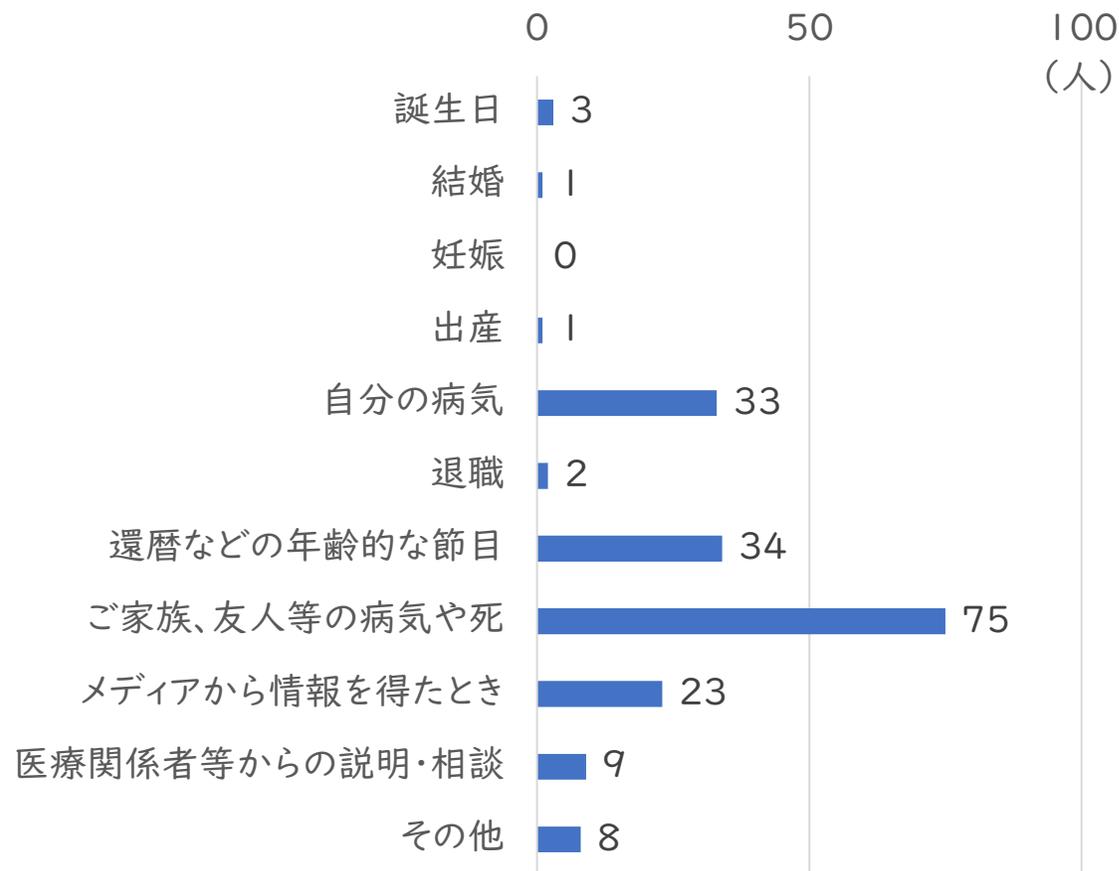
調査の結果⑬

《在宅療養・終末期医療について～ご家族の在宅療養について～》

《家族に万が一のことが起こったときや人生の最期について話し合ったことはありますか》



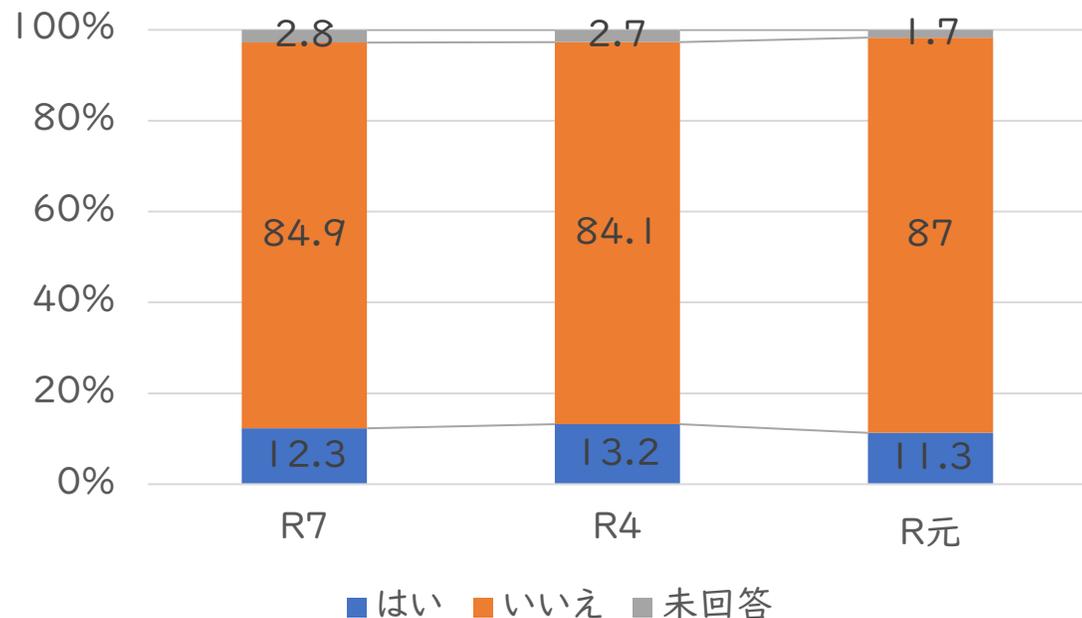
・家族に万が一のことが起こったときや人生の最期について話し合ったことについては、25、5%の人があると回答しています。
・話し合ったきっかけでは、ご家族、友人等の病気や死、自身の病気が多くなっています。また年齢の節目、メディアから情報を得たときも多くなっています。



調査の結果⑭

《在宅療養・終末期医療について～ご家族の在宅療養について～》

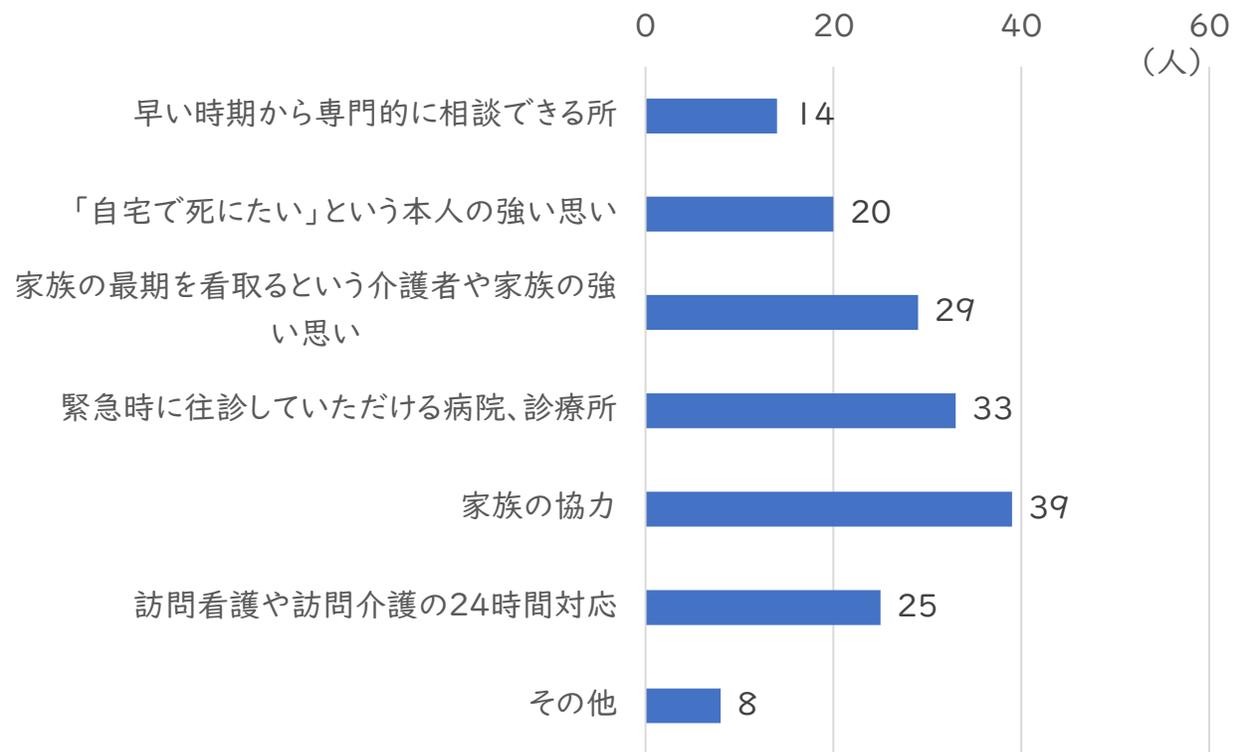
《あなたは過去10年間で、家族の最期を自宅で看取ったという体験をしたことはありますか》



・在宅看取りの経験では、12.3%の人があると回答しています。在宅看取りの経験については、前回調査、前々回調査と大きな変化はありません。

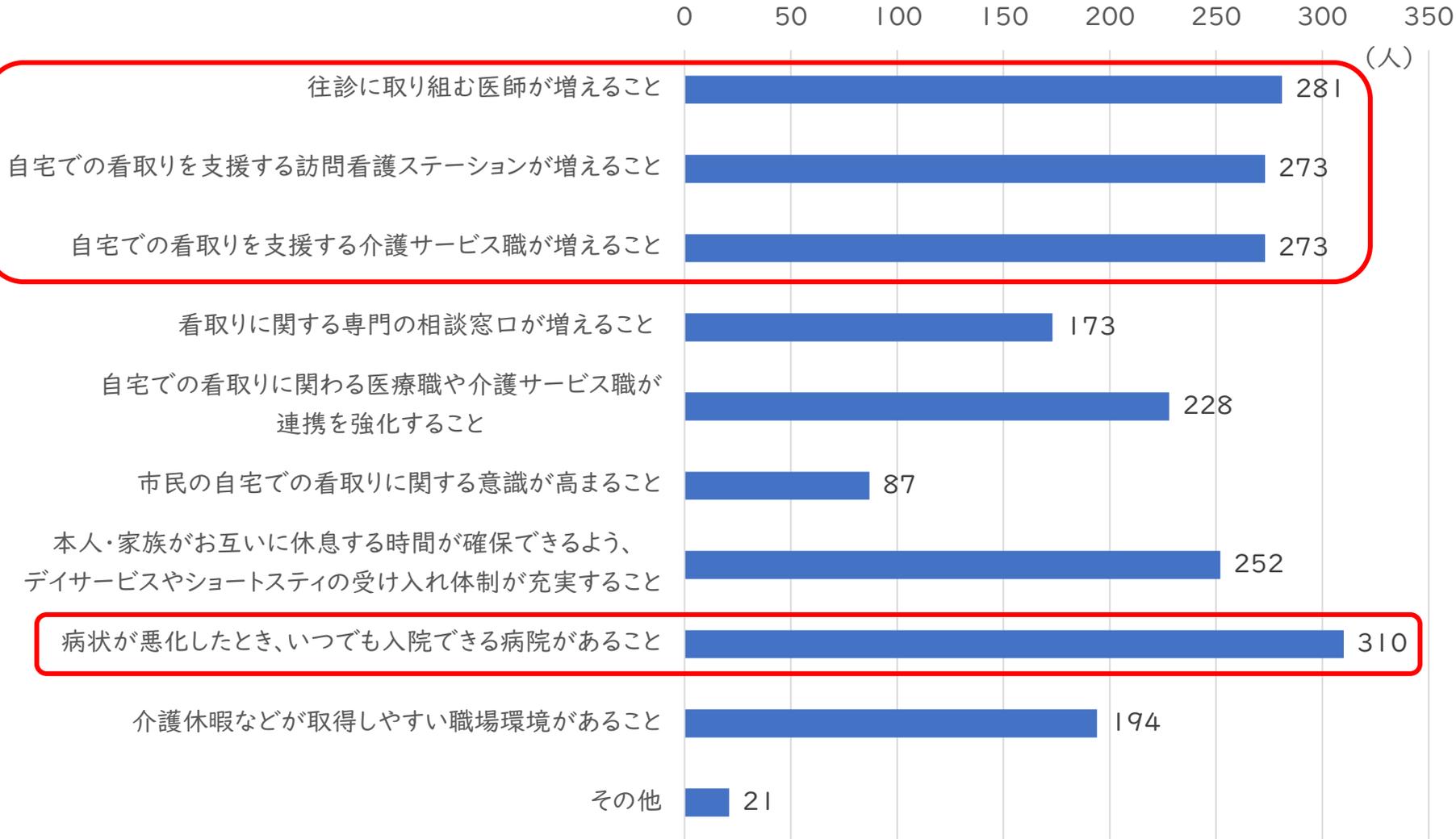
・家族を看取るために必要なことでは、家族の協力が最も多く、次いで緊急時に往診してもらえる診療所、家族を看取るといふ介護者や家族の強い思いの順で多くなっていました。

《家族を自宅で看取るために必要なこと》



調査の結果⑮

《在宅療養・看取りを推進するために必要なことについて～》



・在宅療養・看取りを推進するために必要なことでは、病状が悪化したときにいつでも入院できる病院があることが最も多く、次いで、往診に取り組む医師が増えること、訪問看護ステーション、介護サービス職が増えることの順で多くなっています。

まとめ①

◆エンディングノートについて◆

- ・認知度は80%以上と高いが、活用している人の割合は8%と低い。
- ・書いたきっかけでは、**書籍や雑誌、テレビなどで存在を知ったからが最も多く**、次いで自身や家族の病気などをきっかけに書くことが多い。
- ・書いたエンディングノートについては、共有した人が56.4%。**38.5%の人が共有できていない**。
- ・エンディングノートを書いたことがない人のうち、いずれ書くつもりと回答している人が42.5%であった。書く目的や書き方を知ることができれば書こうと思う人が40.3%で、知る機会としては、**ホームページ**と回答した人が最も多い。



つなぐノートを書いて、活用する方法の啓発

《令和8年度の取組(案)》

- ・つなぐノートの出前講座の継続
- ・(新)ホームページを活用した、つなぐノートの啓発
- ・(新)病院や診療所でのつなぐノート活用方法の啓発ちらしの掲示
- ・(新)つなぐカードの作成

まとめ②

◆ACPについて◆

- ・ACPの認知度は13.4%と前回調査時と変化なしであった。しかし、自分に万が一のことがあったときのことなどを話し合ったことがある人の割合は約30%と前回調査時よりも増加している。
- ・家族に万が一のことが起こったときや人生の最期について話し合ったことがある人の割合は、25.5%と前回調査から変化はなかった。
- ・(ご自身のこと、家族のこと)話し合ったことのある人のきっかけでは、ご家族や友人の病気、自身の病気、年齢的な節目が多かった。
- ・(ご自身のこと)話し合ったことがない理由では、きっかけがなかったが多かった。



(市民) ACP (人生会議) のきっかけづくり

《令和8年度の実施(案)》

- ・つなぐノートの出前講座の継続
- ・(新)ホームページでの啓発
- ・広報での特集記事

(医療・介護関係者) ACP (人生会議) の推進

《令和8年度の実施(案)》

- ・看取りケア研修での好事例の共有
- ・顔の見える会

まとめ③

◆在宅療養・終末期医療について◆

- ・人生の最期を迎えたい場所では、**自宅が最も多く**、次いで病院、わからないの順が多かった。
- ・自宅を希望する人の割合は、前回調査時よりは増加したが、**前々回調査よりは大幅に減少している**。
- ・わからない理由では、「先のことでわからない」や「病状により過ごしたい場所は変わる」などの理由であった。
- ・自宅の環境が整っていれば、在宅看取りを希望する人の割合は52.5%で前回調査時よりも増加している。
- ・死期が迫っている状況にある場合は、**自宅で療養して必要になれば、病院や緩和ケア病棟に入院する、なるべく早く緩和ケア病棟に入院すると回答した人の割合が多かった**。
- ・自宅で最期まで療養できるかについては、できると回答した人が5.6%と低く、在宅療養・看取りを現実的に考える人は少ない。できないと思う理由では、**介護してくれる家族に負担がかかる**という理由が最も多く、次いで**症状が悪化した際の本人や家族の不安**が理由として多かった。



(市民) 在宅療養・看取りに関する啓発

《令和8年度の取組(案)》
・広報の特集記事

(医療・介護関係者) 多職種連携の強化

《令和8年度の取組(案)》

・顔の見える会や看取りケア研修会での顔の見える関係性づくりの継続